

# Trial & Error

No.288

July-August 2011



特集

## 次につなげる若者たち

日・タイ若手農民交流が目指すもの



特集

## 次につなげる若者たち

日・タイ若手農民交流が目指すもの

「交流」。ともすれば陳腐に受け取られてしまうこの言葉も、そこから意味のある実践が生まれてくるのなら悪くはない。タイと日本、ともに発展した国で、わざわざ農業をなりわいにしようとする若者たちに JVC は交流の場を提供している。はたして、そこに実践は生まれてくるのだろうか。(編集部)

## 仲間とともに農に生きる

タイ事業担当 宮田 敬子

### ■農民交流が生み出した世代

「社会や環境、農業に対して同じような目標を持っている仲間と出会う機会があれば」というタイの若手農家の言葉から、この『日・タイ若手農民交流』は始まった。その言葉からは、若手農家の様々な苦悩の背景がうかがえる。

現在、タイは政治的な混乱がありながらも経済成長を続ける中進国である。かつて農業国と言われたこの国は、現在では工業国へと変貌<sup>へんぼう</sup>している。生活環境や教育制度も整っており、首都バンコクのみならず地方でも急激な都市化が進んでいる。十、二十年前のタイを知っている人ならば、最近のタイの変化に驚きを隠せないだろう。

都市が発展すればするほど、農村から様々なものが消えていった。労働力、農家の担い手、学校教育を受けたものの知識、地域のつながりや助け合い、それらすべてが都市へ流れていったか、もしくは消えてしまった。八〇年代からタイに関わってきた JVC は、かつてより当事者交流である「農民交流」を活発に行なってきた。そこで生まれた仲間同士の絆は深く、同年代の農民活動家は国境を越え

て、現在でもかけがえのない存在となっている。交流を通じて、経済を重視した発展による農業や農村への負の影響や農家の苦悩を共有してきた。そうした世代は五十、六十代であり、その下の二十、四十代はそうした世代に様々な影響を受けてきた。若くして農村に入って農業を始める者や農家を支える仕事に就く者など、タイと日本両国の各地に点在する。

### ■工業国で農に生きる困難さ

しかしながら、その土地出身者でない「よそ者」やその土地の者であっても価値観の違う若い人が農業を始めるには様々な困難が生じる。タイにおける困難は、農業をする者は社会的地位の低い者であるという社会的な認識により、いざ農業を始めようとする大変な変わり者扱いをされることにある。良い教育を受け、公務員が大企業に就職することが親孝行であり、社会のためであるという大きな一つの流れの中で、その流れから外れようとする者はなかなか社会に受け入れられにくい。マイノリティーが排除されやすいように、農村社会の中ですら異質物のように扱われるのだ。

一方、日本も農業後継者の

減少、過疎化と耕作放棄地の増加などの問題を抱えている。そうしたなかでも、農業や農村を通じてオルタナティブな生き方を模索する新しい世代の人々が徐々に増え始めている。この活動を通じて出会うことのできた日本の若手農家の多くは、海外を含めた世界の情勢に通じている。中には、国際協力を目指し、行き着いた先が「農」を通して世界を変えていくことだという人もいた。そして、タイの若手農家が抱えている問題や課題は同じく、日本の若手農家も抱えていた。

### ■同じ志をもつ仲間を持つ

タイの若手農民の一言から始まったこの活動に、JVC は互いが学びあう交流の場を提供する形で協力してきた。これまでに日本とタイの若手農家はお互いを合計三回行き来してきた。「農」という一つの共通点を持っていることで、国籍が違っても両者はあつという間にわかりあうことができる。鉄<sup>てつ</sup>ひとつとっても、そこから土の硬さ、農法まで農家だからこそのわかる共通認識のようなものがある。また、ムラ社会のあり方やそこでの苦しみは実際にそこにいる人だからこそのわかる。



# 日・タイ若手農民交流

JVCは、タイと日本の若手農民たちが互いに出会い  
経験交流を行なえる場を提供しています。

## ■活動の目的：

タイと日本における若手農民・活動家の発掘・  
育成を通じての参加者同士の関係性の発展

## ■活動期間：

2009年11月～2011年10月  
(※ JVCとして関わる期間。交流自体はこれ  
以降も続いていく)

## ■対象者：

タイと日本において持続的な社会を作ろうと 取り  
組む若手農民・活動家

## ■この交流が目指すもの：

農村で豊かな社会をつくらうとする若手 農民  
が、次世代に刺激を与えうる存在に なること。

## これまでの交流

|          |                                                                             |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 2009年11月 | タイの農家が集まり、タイにおける若い世代の農家の問題について話し合う。                                         |
| 2010年2月  | ■第1回タイツアー(日本→タイ)<br>日本の農家(千葉、島根)5名がタイの農家を訪問するツアーを実施。                        |
| 4月       | ■第1回日本ツアー(タイ→日本)<br>タイの農家5名が日本の貧困問題に取り組むNPOや新規就農者を訪問するツアーを実施。               |
| 11月      | ■第2回タイツアー(日本→タイ)<br>日本の農家5名がタイの農家で農作業体験。その他、食品加工場、直売市場、都市の貧困問題に取り組む団体などを訪問。 |
| 2011年2月  | これまでの交流での経験を発信するため、農民シンポジウムを企画。                                             |
| 7月(予定)   | ■第2回日本ツアー(タイ→日本)<br>タイの農家4名が日本の中山間地で1ターンで農業を営む新規就農者を訪問する。                   |
| 9月(予定)   | 日本とタイの農家や農業ジャーナリスト、NGOが東北タイの農村でシンポジウムを開催する。                                 |

## 報告書つくりました。

この交流のこれまでの記録を報告書にまとめました。交流を通じた日本・タイの農家たちの声を聞くことのできる報告書です。ご入用の方は [miyata@ngo-jvc.net](mailto:miyata@ngo-jvc.net) までメールしていただくか、東京事務所にお電話ください(03-3834-2388)。



人は他人と出会うことによって、様々な刺激を受ける。文化や社会背景も違う外国の人とならなさらである。国境を越えて出会うことで、自分の周りの課題や問題点に改めて気づくことができる。また、国を越えた交流によって、逆にそれぞれの地域でのつながりが芽生えはじめた。島根県の弥栄町から参加した農家六名は、それまで顔見知り程度だったが、声を掛けて集まるような仲になった。タイでも、若手農家はお互いの農園を訪問し合い、近況を伝える仲になった。交流がひとつのきっかけとなり、徐々に人間関係の

密度が濃くなっていく。また、人と出会うにつなことで、自分がやってきた活動に自信をつけ、それが明日へのエネルギーにもなる。「農業ってというのは孤独なんだよ。村に入って日々仕事をしていると、時々どうしようもない孤独感と焦燥感にさいなまれるときがある」あるタイの農家の言葉である。農業が社会的に認められた職業でないと同時に、農業では生計を立てていけないという一般的認識が、意欲を持って農業の世界に入ろうとする若い世代を苦しめる。そうしたときに、数は少なくても仲間がいること

は大きな励みになる。

## ■次につなげるために

活動目的にあげている「関係性の発展」とは、人と人が出会うことによって、互いの生き方の経験交流を行ない、そこから自分たちが抱える問題や課題を発見し、それを解決するため互いに情報交換しながら答えを見つけていくという関係を作っていくこと、と考えている。

この二年間、この活動は「次世代に刺激を与えうる存在」を発掘するための種まきを行ってきた。交流を単なる出会いや学び合いの場で終わらせず、一

度出会った人々が今後もつながりを持っていけるように、そして交流の軸となる人がこうした活動に参加する可能性のある新しい人を探し出すという流れもできつつある。

この活動の主役は当事者である農家同士であり、彼ら彼女らがお互いに教え合い、学び合う関係を作っていくものである。JVCの役割は、そうした交流の場を提供するとともに、そこから生まれてくるであろう次世代へのメッセージをすくいとり、発信しつづけていくことではないかと考えている。

# 交流と実践を往復していく

この交流には、タイと日本両国の若手農家が参加している。ここでは、その参加者にこの交流から得たもの、そしてその先に見ているものを聞いた。(編集部)



■室住さん(写真右端)の案内で日本のお米作りを見学。

## 信念ある笑顔を見て

千葉県東金市 室住圭一



北部タイの少数民族ラフ族のもとでボランティア活動をする。その後、新規就農者として千葉県へ入り、現在は夫婦で農業を営む。農場を農業体験ができる場として、イベントを開催したり、農業研修生を受け入れている。

日本やタイという国にかかわらず、百姓はみな信念をしっかりと持っています。二十一世紀という時代の中では農業は主役にはなれないかもしれませんが。しかし、まがい物がまかり通る現代で、人間が生きていく上で本当に必要な本物の食べ物を作る！ということへの誇りをみんながしっかりと持っている、この交流を通じて感じました。交流ツアーの行く先々で我々は色々なものを見せていただき、多くの人たちの笑顔を見ることが出来ました。その笑顔とは、恥ずかしげに照れ笑いするような笑顔。でも、それは有機農業という自分の信念の裏打ちがあるしっかりとした笑顔のように思えます。

私も多くの人の笑顔に出会えるからなのかも知れません。今回もそんな笑顔に触れることができ、とても有意義な時を過ごすことができました。タイと日本の有機農業では周りの状況などで異なる部分があるように思います。それでもそんな状況をお互いに理解し、技を磨き、助け合いながら、次の世代へとつなげるメッセージをみんなに残せるように日々精進しようと思いました。

この交流が今後も益々深められるよう、そしてこの輪がさらに多くの国々の百姓を巻き込んでいけるよう盛り上がることを期待します。私も微力ではありますが積極的にかわっていきたいと思います。今回の旅は私たち夫婦にとって、とても刺激的な旅となりました。タイで出会ったあの笑顔を中心に刻みつつ、これからも百姓仕事に励むつもりです。

## つなぎ役として関わる

島根県浜田市弥栄町 相川陽一



京都府に生まれ、千葉県芝山町に移る。大学進学を機に東京に移り、都会暮らしを始める。その後、〇六年から生家に帰って有機農業を始める。〇九年八月、島根県中山間地域研究センターの特別研究員として現在島根県弥栄に赴任中。

〇九年夏から、縁あって西中国山地に位置する島根県浜田市弥栄町に赴任し、二年がたとうとしている。それまで暮らししていた千葉と島根を往復しながら、両地域で有機農業への新規参入者と共に動き、都市から農山村に向かう人の流れを創り出す仕事に取り組んでいる。赴任して間もないころ、JVCから タイと日本の農民をつなぐ農山村次世代リーダーづくりへの協力要請を受け、タイ東北部・弥栄―千葉(成田・東金)をつなぐ農民ネットワークづくりのアイデアをJVCタイ事業と共に練り、国内二カ所の若手農民とタイ東北部を訪ね、タイの若手農民を日本に迎える活動を続けている。

一〇年には二度のタイ訪問と成田での訪問受け入れがあり、今年七月には弥栄と成田・東金にタイの若手農家が訪ねてくる。弥栄では初めての受け入れである。受け入れ準備で夜な夜なメールが飛び交い、準備会議が重ねられている。

私の役割は日本側の現地コーディネーターである。日本の若手農民の暮らしと受け入れを受けたい、タイ訪問で感じたことや今後に望む交流の形をタイ側に伝えていくことを主な役目と考えている。JVCもタイ側で同じことをしてくれている。

交流が進むにつれ、私たちの目標のひとつである「ネットワークづくり」の達成とは、どのような状態なのだろうかと考えようになった。定期的な相互訪問を通じて、農民同士の心的な距離が縮まり、生産・加工から販売に至る技術交流が進み、やがては(私のような)つなぎ役も支援者からひとりの仲間として交流の輪に加わっていく。新緑の山村を歩きながら、そんな風景を思い描いている。



■行く先々で食べ、飲み、そして話す日々を通して、お互いを理解していく。



■有機農業で著名な金子美登氏(写真右)の霜里農場にも訪問。



■タイで液肥の作り方を教わる。

## 働き、学び、実践する

### タイ東北部ムクダハーン県 コムサン・チャイタウィープ



タイ東北部ヤソトーン県出身。実家は農家であったが、高校卒業後、バンコクへ一年間出稼ぎに。その後、バンコク郊外の自然農業研修センターである「ノンジヨク自然農園」の研修生となる。研修修了後にアースネット財団で二年間働き、その後タイ東北部ムクダハーン県で有機農業を実践する農園を設立。農園は日・タイ若手農民交流の拠点となる。

これまで出会ってきた日本の仲間、「日本社会は発展している。でも、幸せだと感じている人は少なくなってきた。まったく幸せだと感じられない人も多い」と言っていた。あまりにも忙しい生活の中で、消費することで気持ちを満たしている人がたくさんいて、家族・親戚同士で助け合う関係も希薄になっている、特に若い世代の生活が困難になっている、と。それが発展した国の現状なのだろうか、そこまで深刻な状況なのかと、私は疑問を持つようになった。

この交流を始めてから日本の仲間たちに関して最も感心したことは、みんな素晴らしい人間だということだ。開発において一番大切なのは、「人」だと思う。社会の中の一人ひとりが規律を守り、忍耐強く、真摯に働き、学ぶ気持ちを常に持ち、他人を尊重すること。それができれば、必ず社会は良い方向に発展する。

この交流から学んだことを、私はこれから生活の中で実践していきたいと思っている。自分自身のために、そして私たちの社会のために。

## 社会・地域・農業を知る

### タイ東北部ヤソトーン県 チラワット・セーンスワン



南タイのブーケット出身。九九年、タイ東北部ヤソトーン県クチュム郡にある社会ボランティア財団で農民グループコーディネーターや有機農業の普及に八年間携わった。その後、アースネット財団スタッフとして、タイ東北部ヤソトーン県で有機米生産者グループの支援担当に。近い将来、就農する予定。

先進国に問題があると、その他の国にも同じように問題を引き起こす。国によっては、都市で失業したとしても、家族がいる田舎に戻って農業をするという選択がある。しかし日本では、都市で解雇され仕事がないと住むところがなくなり、それに対する保護もない。住む家がない人たち(野宿者)は、怠け者や能力や技術がない人ではなく、社会の経済状況から仕事を失くした人たちであった。

一〇年四月の日本ツアーを通して、都市での貧困問題解決のためには、国の政策や地方の条例はもちろんのこと、その問題に対する理解が必要になることを学んだ。それに取り組む私たちには、日本の貧困者について、毎日の生活や孤独などについての知識や理解、強い意志、そして、各専門分野との協力し合うことが重要であると感じられた。

農業については、季節と時期に合わせた作付け計画以外にも、知識、検証、統計データの収集、そして地域内の住民や商店とのつながりなどが必要だと学んだ。それ以外にも、どこまで自給自足できるかという自分の目標も重要だ。例えば、自分の土地の資源を最大限に利用する方法、畑や家畜の改善、使わない木材を炭にして暖房の燃料として使用するなど。

農業は若い世代が入ってこなければ続かない。今までの世代が若い世代に機会を与え、若い世代は実践しながら知識や経験を積み、経験交流し、お互いに励ましあうべきであろう。そうすれば、協力し合いながら様々な問題を一緒に解決していくことができるだろうと思う。



### 谷山 博史 (代表理事)

2年目の農業研修、朝のジョギング、節電、自炊、飲み会をしっかりとこなす。

### 磯田 厚子 (副代表)

(多忙につきコメントをいただけませんでした)

### 清水 俊弘 (事務局長)

生活空間における入り(電力や水など)と出(排水やゴミなど)双方の最小化に努める。

### 山崎 勝 (カンボジア事業担当)

カンボジア料理を食べて、体脂肪3割減。尿酸値も抑えて、家族円満。

### 島村 昌浩 (ラオス事業担当)

日本全体が厳しい環境に置かれているなか、何をすべきか常に意識して行動したい。

### 宮田 敬子 (タイ事業担当)

タイ語を極めるべく、語学学校に通い始めました。目指せ、タイ語検定2級。

### 渡辺 直子 (南アフリカ事業担当 / 現地代表)

JVCに入ってから丸6年、右肩上がりの体重を…せめて増やさないようにしたい。

### 下田 寛典 (緊急支援担当)

手狭な我が家から脱出。不動産屋の店頭広告チェックで掘り出し物件を見つける!

### 長谷部 貴俊 (アフガニスタン事業担当 / 現地代表)

9歳の娘と毎週プール通いを続け、11歳の息子と読書量を競い、老化を防ぐ?

### 谷山 由子 (アフガニスタン事業担当補佐)

流暢なダリ語で現地とやりとりし、趣味歴3年の三味線で高円寺の阿波踊りデビュー!

### 西 愛子 (アフガニスタン事業保健アドバイザー)

大根、白菜、ほうれん草をうまく育てられるようになって自前の野菜で鍋料理。

### 津高 政志 (パレスチナ事業担当)

中東の民族楽器ウードをもっと練習し、チャリティコンサートを開催。



### 佐伯 美苗 (スーダン事業担当)

語学のおさらいを2ヵ年計画として、今年2年め。成果は…

### 寺西 澄子 (コリア事業担当 / 会員担当)

ノンフィクション『朝鮮を知りすぎたシュフ』(仮題)の編集に携わり完成させる!?

### 高橋 清貴 (調査研究・政策提言担当)

(多忙につきコメントをいただけませんでした)

### 藤屋 リカ (海外事業担当)

年々増える小言と皮下脂肪。人に迷惑をかけないほうを増やすべく食を通して現地応援。

### 武繁 政昭 (経理担当)

徒然な日記の原稿をまとめて、エッセーにまとめてみたい。

### 稲見 由美子 (経理担当)

子どもたちに負けたくないくらい、日々学ぶ!!

### 広瀬 哲子 (広報担当)

①宮崎駿作品を時系列に観直す「ジブリ飲み」の完了②フルを走れるよう皇居ランに励む!

### 細野 純也 (会報誌レイアウト / 総務担当)

来年仙台にアウェー参戦するため、今年こそジェフ千葉のJ1昇格を見届ける。



後列(6名)左から:武繁、高橋、津高、細野、稲見、原  
中列(7名)左から:荻野、渡辺、島村、高杉、広瀬、寺西、宮田  
前列(4名)左から:山崎、長谷部、清水、谷山博(バス化ビル理事)  
左枠内:磯田、藤屋、佐伯、谷山由、下田、西

### 荻野 洋子 (カレンダー事務局)

セネガル/マリ国境の村の踊りと太鼓(ジェンベ)を失われる前に学び伝えていきたい。

### 高杉 香織 (コンサート事務局)

飲みすぎない、食べすぎない、頑張りすぎない、やけ酒しない。

## 東京事務所 (22名)

## JVC STAFF 2011

2011年を担う  
94名のスタッフに  
抱負を聞きました

## カンボジア事務所 (19名)



前列左から:ロット、ナビ、ウッサ、坂本、ネアリー、若杉、リツ、  
ブン・ルーン、ソ・マッチ、ソン、スイネン、エン  
後列左から:ブン・ヒェン、樋口、チェン・ンガウ、チャンリツ、  
ソ・マッチ、コル

### 若杉 美樹 (現地代表)

自宅で植物を育てて生活に余裕を持つ、体力作りにも励みたい。

### 坂本 貴則 (CLEAN プロジェクト担当)

飲み会を減らして、産まれたばかりの娘と対話する!

### サム・ネアリー (CLEAN コーディネーター)

週末に通っているマネジメントの大学院を修了し、新しい未来を切り開く。

### クン・コル (CLEAN シニア・トレーナー)

JVCで働き始めて4年になるので、そろそろ日本に行けないかな…

### ムット・ロット (CLEAN フィールド・スタッフ)

結婚したばかりですが、仕事を楽しんでいる子どもはしばらく作らないようにしたい。

### ミク・チャンリツ (CLEAN フィールド・スタッフ)

来年はもっと給料を上げてもらえるように、頑張りをアピールするぞ!

### モーン・ソッカ (CLEAN フィールド・スタッフ)

単身赴任をやめて、妻と子どもと一緒に生活をエンジョイしたい。

### ミエン・ソ・マッチ (CLEAN フィールド・スタッフ)

夫が新しくバイク修理の仕事を開業したので、休みの日には営業を支えたい。

### パオ・リツ (CLEAN 運転手 / 総務補佐)

ハイブリッド仕様のエコなランクルをJVCに買ってもらえますように…

### 樋口 正康 (CLEAN 環境教育担当)

心を整える。

### オウ・ウッサ (CLEAN 環境教育シニア・トレーナー)

小学校での教育事情をもっと知りたい。

### ヒ・タン・ホーン (CLEAN 環境教育フィールドスタッフ)

JVCで働き始めたばかりですが、持続的発展を子どもたちと一緒に考えていきたい。

### イン・コック・エン (資料・情報センター (TRC) 司書)

TRCの利用者増加が私の幸せ、パンフレットをもっと多くの大学に配ります。

### ブラム・ナビ (経理担当)

会計ソフト QuickBooks に習熟して、マネジメントの修士号も取りたい。

### ヘン・チェン・ンガウ (経理担当)

お金を貯めて、アメリカにいる両親に会いに行きたい。

### ボム・ボン・ルーン (運転手 / 総務担当)

健康に気をつけて、安全運転を心がける。

### ダン・ソン (警備 / TRC 補佐)

今後もずっと JVC で働きたい!

### チン・ブン・ヒェン (警備 / TRC 補佐)

堆肥についてもっと勉強して、粒状にする機械製作にチャレンジ!

### サー・スイネン (清掃担当)

将来お金が貯まったら、小さな小売業を始めたい。





後列(8名)左から:デラワール、サビルッラー、イザトゥッラー、モハンマド・ナシーム、アガ・グル・パチャ、ザマヌラー、モハンマド・ナセル、ライズ  
中央列(5名)左から:ミル・ジャマール、アブドゥル・ワハブ、シャブール、グラライ、トラブ・ハーン  
前列(6名)左から:イサヌラ、ファゼル・ハック、シャー・モハンマド、モハンマド・ラヒーム、サイード・サファラガ、アジマール・クラーム

## アフガニスタン事務所 (31名)

**サビルッラー・メモラワル** (治安 / 総務)  
アフガンに平和が訪れ、安心してクリケットができますように。

**イサヌラ・カタック** (経理)  
両親の希望をかなえるように、子どもが今年ほしい。

**デラワール** (守衛主任)  
健康に気をつけてスポーツを始めたい。

**イザトゥッラー** (守衛)  
楽しく人生を過ごし、2人目のお嫁さんがほしい。

**ザマヌラー・メモラワル** (守衛 / 運転手)  
家族と幸せに暮らしていきたい。

**アジマール・クラーム** (教育支援担当)  
良き伴侶をもらい人生を過ごしたい。

**サイード・サファラガ** (調達 / 総務担当)  
妻と激しい恋をし、子どもにいい教育を与えたい。

**トラブ・ハーン** (経理補佐)  
高等教育のコースに入りたい。

**バスミナ** (調理担当)  
旦那がきちんと家族の面倒をみるようになってほしい。

**モハンマド・シャブール・サフィ**  
(医師、医療事業責任者)  
他のスタッフが能力を向上し、知識をつけてもらいたい。国中が平和になってほしい。

**ファティマ・カディム** (地域保健担当)  
アフガニスタンに平和が訪れますように。

**アブドゥル・ラジーク** (守衛)  
JVCが保健分野での活動をもっとがんばり、アフガニスタンをよくしていきたい。

**アガ・グル・パチャ** (守衛 / 運転手)  
道路に外国軍を見なくてすむような状況になってほしい。

**アブドゥル・ワハブ** (医師、地域保健責任者)  
国が過去40年間の戦争・内戦から抜け出し、自分は健康でポジティブに生きていく。

**モハンマド・ナセル** (医師、診療所所長)  
社会が発展し、それが個々人の健康につながってもらいたい。

**モハンマド・ラヒーム** (診療所看護師)  
アッラーの教えに従い、わが子がイスラムの教えと世界について知識を得てほしい。

**グラライ** (診療所検査技師)  
平和が訪れ、世界中の人がアフガニスタンに訪問してくれるようになってほしい。

**ザイナブ** (診療所助産師)  
病気の人を治すように一生懸命働きたい。

**ファゼル・ハック** (ワクチン接種担当)  
アフガニスタンの人々のために働きたい。

**ライズ・アフマッド** (診療所薬局担当)  
今まで以上にアフガニスタンのために働きたい。

**モハンマド・ナシーム** (医師、簡易診療所所長)  
医者であり続けるために健康でありたい。

**ワグマ** (簡易診療所助産師)  
女性は社会の重要な部分であり、女性の権利を守るために手助けをしたい。

**ミル・ジャマール** (簡易診療所薬局担当)  
アフガニスタンが平和になり、争うことなく人々が暮らせる社会になってほしい。

**フルシード** (ワクチン接種担当)  
ワクチンは大切なもので、なぜなら妊娠している女性死亡率を下げるから。

**アシール・モハンマド** (簡易診療所守衛)  
国の奉仕者になりたい。

**シャハブディン** (簡易診療所守衛)  
欠点をなくし、JVCの活動にもっと積極的にありたい。



後列(5名)左から:フンパン、平野、グレン、ホンパソン、クム  
前列(7名)左から:チャットウン、コーン、アリワン、マライワン、ホンケオ、レノール、センチャン、センサリー  
枠内:スワニー、アロニー、ペッタワン

## ラオス事務所 (15名)

**平野 将人** (現地代表 / 農業農村開発担当)  
筋肉を増やしつつSウェルター級まで絞った身体で、再び南相馬で汗を流したい。

**グレン・ハント** (森林プロジェクトマネージャー)  
昨年と同じになってしまうが、今年こそ、絶対に論文を提出して博士課程を終えたい。

**センチャン** (森林チーム)  
これまでは企業で働いていたため、地域開発の経験が浅いので、今後この分野について深く学びたい。

**チャットウンコーン** (農業チーム)  
母親のために車を購入したい。

**センサリー** (農業チーム / ブルー語通訳)  
自分の出身地である村で、両親のために井戸を掘ってあげたい。

**マライワン** (庶務 / 英語通訳)  
個人としては、チェンマイで暮らす友人を訪ねたい。業務に関しては、法律と森林分野の専門用語をさらに学びたい。

**アロニー** (会計)  
小規模の託児所を開設したい。

**ペッタワン** (森林チーム)  
チェンマイで行なわれる長期研修に参加するので、そこでの学びを持ち帰りたい。

**ホンケオ** (森林チーム / ブルー語通訳)  
英語を上手に話せるようになりたい。

**レノール** (森林チーム)  
弁護士資格取得研修に参加したい。また昨年よりも英語能力を向上させたい。

**アリワン** (農業チーム)  
ケーキとクッキーを焼くためのオーブンを買うためにお金を貯めたい。

**ホンパソン** (運転手)  
家族を古都リアンパバーン旅行に連れて行きたい。

**クム** (運転手)  
末の息子が自宅から遠い学校に通っているため、お金を稼いで通学用オートバイを買ってあげたい。

**フンパン** (農業チーム)  
今年は娘が8月に高校を卒業するので、その後良い進路が取れるようにしてやりたい。

**スワニー** (VT事務所アドミ担当、6月に9年勤務のち円満退職)  
ラオスの発展のためにご支援いただいたすべての支援者のみなさんに感謝します。

## アフガニスタン事務所 (31 名、続き)



左から: ザйнаブ、ワグマ、バスマ、ファティマ・カディム



左枠・上段左から、アシル・モハンマド、アブドゥル・ラシーク、カン・ミル、ジャナット、グル・シャハブディン、ナビ・ジャン、ハビブラフマン、フルシード

### カン・ミル (診療所庭師)

診療所に花を植え、診療所が緑深く、多くの花が咲くところになりたい。

### ハビブラフマン (診療所守衛)

人々のために働き、私の前で誰も悲しまないようにしたい。

### ジャナット・グル (診療所守衛)

診療所がきれいにして、ゴミがないようにしたい。

### ナビ・ジャン (守衛/運転手)

ゴレークでの医療活動に関係しているので、自分も医療分野でなにかしてきたい。

### シャー・モハンマド (運転手)

健康で安全な生活が過ごせるように。

## エルサレム事務所



### 福田 直美 (現地代表)

公私共に整理整頓。机の上も頭の中も心も腹回りも、常に身軽でいたいです。

## 南アフリカ事務所 (3 名)



左からドウドウジレ、ジャクソン、アベル

### ドウドウジレ・ンカビンデ

(プロジェクトコーディネーター)

今年で 40 歳。子どもがほしい。早く父親候補を見つけなきゃ。

### ジャクソン・カディアカ

(パーマカルチャートレーナー/都市菜園)

自分の有機農園で作っている「エコビレッジ」を完成させる。

### アベル・コマネ

(パーマカルチャートレーナー/都市菜園)

現在暮らすジャクソンの家を出て実家に戻り、有機農園を作って母を支えたい。

## イラク事業 (在ヨルダン)



### 原文次郎 (イラク事業担当 / 現地調整員)

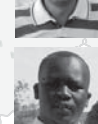
仕事はもちろんのこと、プライベートを充実かつ持続可能な状態にする。

## スーダン事業 (2 名)



### 今井 高樹 (現地代表)

村で月夜のお祭りに参加して朝まで踊りたい。



### イサム・アンドー

(アシスタント・コーディネーター)

大学卒業に次ぐ人生二度目のビッグイベント、結婚のチャンスを見つめるぞ!



JVC が東日本大震災被災地で行なう活動への寄付は、「指定寄附金」として、通常の寄付以上の税制優遇を受けられます。

2011 年 4 月 27 日に、**認定 NPO 法人向け「指定寄附金」制度**が盛り込まれた震災特別税制が成立しました。JVC による活動もこれに該当するものと認められましたため、5 月 24 日以降に当団体の「東日本大震災の被害者支援活動」に対していただきます寄付金は、通常の寄付以上の税制優遇の対象となります。一例として、**個人での 10,000 円の寄付では 3,200 円が所得税から減額（還付）**されます（税額控除の場合、要確定申告）。詳しくは JVC ウェブサイトもしくは JVC 経理担当までお問い合わせください。



■気仙沼市の浦田地区で行なった青空市では、小型トラックに満載の物資を届けた。（中央手前が下田）

気仙沼市社会福祉協議会が主体となって災害ボランティアセンター（以下災害ボラセン）が立ち上がったのが三月二十八日。JVC は、その二日後にこの災害ボラセンの運営サポートに入った。立ち上げ間もない災害ボラセンでは、被害を受けた家屋の泥かきや清掃に必要な資材そのもの（スコップ、土嚢袋、車両）がまず不足していた。そこで JVC はボランティア送迎に必要な車両二台を貸し出した。一ヵ月後にはゴールデンウィークがあるということで、初期の災害ボラセンは、泥かき・清掃ボランティアさんが活動する場をいかに発掘するか、とい

うことに注力していた。ほぼ同時期、避難所で暮らす被災者と同規模の在宅避難者の存在が明らかになってきた。被災を機に人が散りぢりになり、元からあったコミュニティは壊れつつあった。JVC は、より支援が届きづらい状況にある在宅避難者に対して、物資支援を入り口にして、地域の被災者の方々がもう一度顔を合わせる機会を作れるよう青空市を開催した。ゴールデンウィークを終えても、なお泥かきや清掃の要望は高く、災害ボラセンとしては今後もしばらくはこうした活動を続けていくであろう。一方で、避難所で暮らす住民の数は減少し、かわりに仮設住宅や二次避難所、知人宅への避難、中には自分でアパートを探す人も出てくるなど、暮らしの細分化が進んでいる。住民がバラバラになることなく、地域の助け合いを軸にコミュニティの建て直しに貢献できるよう、JVC は災害ボラセンの中で地域支援部門の機能強化に努めている。

緊急支援担当 下田 寛典

## 避難所支援から地域支援へ



■災害 FM の DJ を担当する沢田さん（右）と吉野さん（左）。二人の絶妙な話術がラジオを支えている。

人口約七万人の福島県南相馬市は東日本大震災で大きな被害を受けた。津波の被害で約千人の死者・行方不明者を出し、福島第一原子力発電所の事故の影響で住民は避難や避難準備を余儀なくされている。四月二十二日以降、市内の原発二十キロ圏内は「警戒区域」に指定され原則立入禁止、二十〜三十キロ圏内は「緊急時避難準備地域」に指定されており、一万人以上の住民が日本各地に避難したと言われている。防災無線は正常に稼動しておらず、放射能汚染の危険がある中で、地域の連絡体制には課題が残されたままだ。このような状況の中で、JVC は南相馬市の臨時災害 FM 放送の運営サポートを開始した。臨時災害 FM とは大規模な災害が発生した際、地域内での情報共有を目的とした FM 放送のことを指す。五月十四日に「みなみそうまいがい FM」が発足し、朝九時、昼一時、夕方五時の一日三回の放送を行なっている。ラジオでは市の集計した市内各地の放射線量の情報、援助物資の配布場所、交通情報、避難所の声など幅広く放送している。JVC は、ラジオの番組制作や体制づくりを支援するために南相馬市にスタッフ一名を駐在させ、東京側にも専従スタッフを一名おいている。また、運営支援に先立ち、千二百個のラジオを南相馬に搬送した。

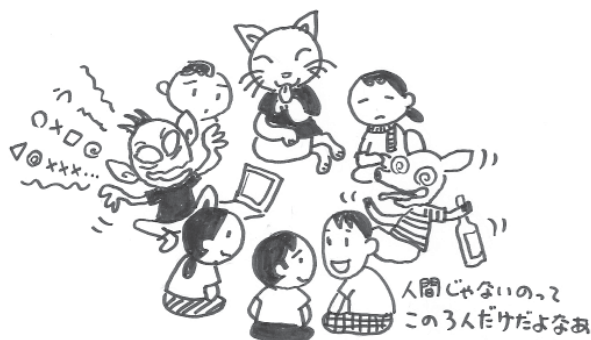
原発事故の状況が今後も予測を許さない中、速やかに情報を伝達できるラジオ局には大きな重要性がある。今後は避難所とラジオ局をネット回線で結び、南相馬市の生の声を県外に避難している人たちに伝えることも予定している。

震災支援担当 白川 徹

## ラジオの声が住民をつなぐように

## 南の国の百鬼夜行？

カンボジア事務所 現地代表 若杉 美樹



最近、「趣味は何ですか？」と聞かれるとちょっと困る。読書？ 映画鑑賞？ 普通すぎてつまらない。植物を育てるのは好きだけど、カンボジアでは暑くて育つかわからないので一時休止中。旅行も好きだが、日常的ではないしカンボジアではどこに行くにも結構お金がかかる。

そこで、人間観察をすることにした。事務所での月一回のミーティングは、見方を変えればまるで妖怪の集会、動物会議である。昔絵本で読んだ、色々な動物が森を守るために話し合う、アレである。少なくとも、

日本人スタッフ二人は相当面白い。

先日あったカンボジア人のスタッフ結婚式で、某日本人は喜びのあまり飲みすぎて、足がふらふらで立てなくなったので、子鹿ちゃんと命名した。足はふらふら、なにかをつかもうと手を前に出して歩く姿は、まるで墓場から出てきたゾンビのようでもあった。子鹿ゾンビ、怖い。

もう一人、かの有名な映画『ロード・オブ・ザ・リング』のスメアゴルもいる。忙しい時や考えながらパソコンで文章を作っているとき、彼は宙に向かって身振り手振りを交え

て、一人でしゃべるのだ。映画の中で夜中にスメアゴルが一人で話している姿と重なり、ちょっと声をかけづらい。本能で生きる彼は、健康診断の聴力検査で「音が小さすぎて聞こえにくい」と看護師に文句を言ってきたと真顔で報告する。音が大きかったら検査にならないのに…。

そういう私を動物に例えると、マイペースという点では猫なのだが、そんなかわいい動物では二人は許してくれないかも…。こんなにぎやかな(?) JVCカンボジア事務所ですが、皆さまぜひ遊びにお越しください。

## 『へいわってどんなこと？』(日・中・韓 平和絵本)

浜田桂子著／童心社／1,500円＋税



ある平和を描いている。浜田さんの『へいわってどんなこと？』は、子どもの日常にある平和を描いている。

戦火が迫る南京を描いた中国の姚紅さんの『京劇が消えた日』、分断を描いた韓国のイ・オクベさんの『非武装地帯に春がくると』、そして昨年、『南北コリアと日本のともだち展』にも携わった浜田桂子さんの作品だ。

その名も「日・中・韓 平和絵本プロジェクト」。三カ国の絵本作家十二名が平和をテーマに絵本を制作し、それぞれの国で刊行するというものだ。六年前に日本の作家の呼びかけで始まり、この春、第一弾となる三冊が出版された。

「過去を振り返り、未来に生かす」、日韓交流で必ず言われるこの言葉が私には重荷だった。歴史を知るほどに難しく思えるこのテーマだが、今年、初めて「未来に生かす」試みに出会った。

「おながすがすいたらだれでもごはんがたべられる」

「おもいっきりあそべる」

「あさまでぐっすりねむれる」

登場する子ども一人一人が生き生きとした表情で描かれ、どの子もいとおしい。震災と原発事故で多くを失った今、平和の本質をとらえた表現が胸に迫る。

実はこの絵本、作家同士が下書きを見せ合い、意見交換を重ねて制作するという初の手法で作られた。議論では『日本人も戦争の被害者だ』という意識がにじみ出ている」との批判も出た。浜田さんは考えた末、「わらいことをしてしまったときはごめんなさいってあやまる」という場面を加えて完成させた。

各国の歴史観や出版事情が異なるため、出版をあきらめた時期もあった。しかし、たとえ形にならなくても、過程に意味があると励ましあって続けたという。それを支えたのは「平和は自分で作るもの」という信念だ。

作家たちの挑戦は、私にこのテーマに向き合う勇気を与えてくれた。この夏、植民地時代を体験した方のお話を聞きにいくつもりだ。

(NHKディレクター 根田知世)

みるよむきく



JVC は、現在 9 の国 / 地域と東日本大震災被災地で活動しています。

## 東日本 大震災

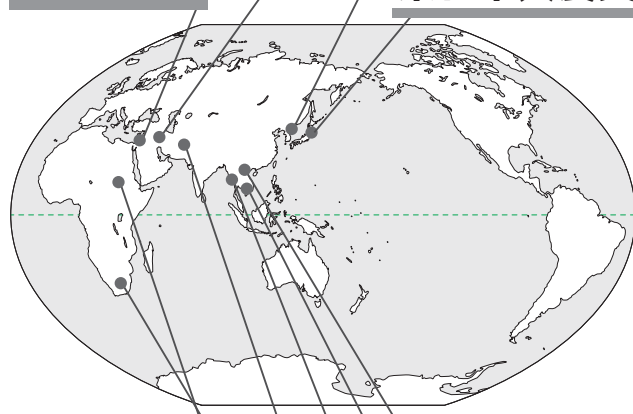
3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震の甚大な被害状況に鑑み、3 月 19 日より支援活動を開始した。国際ボランティアセンター山形 (IVY) が主宰する「東北広域震災 NGO センター」との協力のもと、被害状況の調査と物資支援を行なった。この調査結果を受け、3 月末より宮城県気仙沼市災害ボランティアセンター事務局にスタッフを派遣している。目的は、事務局を担う気仙沼市社会福祉協議会の負担を軽減すること、県外からも訪れるボランティアの募集・派遣に協力することである。

4 月末には福島県の三春町で地元女性たちとともに滝桜花見まつりを開催。同県南相馬市では災害 FM 局の立ち上げに伴い、ラジオの配布や番組制作などに協力している。5 月末からは宮城県岩沼市災害ボランティアセンターで気仙沼市と同様の人員協力も行なっている。(佐伯)



■ ボランティア受付も担当。

## イラク パレスチナ コリア 東日本大震災



## スーダン 南アフリカ アフガニスタン ラオス カンボジア タイ

## カンボジア

### ■生態系に配慮した農業による生計改善 (CLEAN)

07 年からシェムリアップ県東部で活動している。堆肥の実践トレーニングや、農民から選ばれたボランティアメンバー (CCV) への研修を行なった。また、郡レベルのワークショップを実施、JVC の活動に対する理解と今後の協力を要請した。

### ■環境教育

09 年 4 月からシェムリアップ県東部の小学校で実施している。4 月に新年を迎え、多くの小学校が長期の休みに入ったため、フォローアップが中心となった。CLEAN と合同で郡レベルのワークショップを開催した。植林キャンペーンは、今年から CLEAN と環境教育の合同プロジェクトとなり、全スタッフによるミーティングを開始している。

### ■資料・情報センター (TRC)

持続的農業、農村開発、環境に関する資料を 94 年から提供している。書籍や雑誌の収集を常時心がけるとともに、TRC のパンフレットを配布したりと、情報センターとしての充実および新規利用者の拡大に向け奮闘している。

### ■技術学校

85 年に政府と合意し、プノンペンで職業訓練校と付設整備工場を運営している。国内外からの視察者も多く、運営改善に向けて、努力を続けている。(若杉)



■ JVC との協力の可能性について発表する参加者。

## ラオス

### ■森林保全／農業・生活改善事業 (サワナケート県)

農業では、農民経験交流が多く行なわれた。3 月下旬には SRI 乾季作実施農家を訪問

する女性限定の経験交流がピン郡アサボン郡両方で行なわれた。外出に制約の多い女性が参加できるよう日帰りで実施した。3 月末には家庭菜園、4 月上旬には SRI (性別問わず) さらに 5 月上旬の養魚経験交流と続いた。また、今雨季に向けて堆肥液肥研修も行なった。ヤギ銀行ではヤギの配布が、米銀行では新規 3 村で JVC 支援米の配布と村人の貢献分の米の徴収が完了した。

森林では、3 月下旬に若手スタッフ 2 名がネパールに、またチーム全員と村人がタイに、それぞれ村人による共有林管理を学ぶスタディーツアーに訪れた。調査関係では、ラオス国立大学調査チームの NTFP (非木材林産物) 調査を継続した。また、PLUP (参加型土地森林利用計画) の一環として 1 村で GIS (地理情報処理システム) を用いた村の地図作成を実施、産業植林事業に譲渡された面積を正確に把握した。自然資源管理では、1 村で魚禁猟区の開設式を実施、またさらに 1 村で調査を開始した。全体の活動としては、講師を招きジェンダー研修も行なった。(平野)



■ 初の試みだった、女性限定経験交流。

## スーダン

### ■住民と一緒に村を歩き「そこにある資源」の再発見を促す

南北内戦の激戦地であった南コルドファン州において、住民が主体となった村の再建を支援し、今も軋轢が残る住民間の対話促進を通じて再び紛争が起きない地域づくりを目指している。

最初のステップとして、住民とともに村とその周辺を歩き、普段見過ごされている様々なもの、自然資源やそれを利用する知識、伝統技術、協働の仕組みなどを「再発見」する作業を2月から継続してきた。4月にはエル＝ブラム郡の二つの村でこれが終了。今後、再発見した事物、事象を住民が広く共有する場をつくり、何らかの生活改善活動が始まる次のステップにつなげていきたい。もうひとつの事業地タロディ郡では4月に同様に活動を開始。

昨年より延期を重ねてきた州知事・議会選挙が5月に実施され、国民会議党（NCP：北部政府与党）とスーダン人民解放運動（SPLM：南部自治政府与党）との接戦の末にNCPが勝利した。しかしSPLMは「不正があった」として結果を認めず、武力の配備も含め緊張が高まっている。NGOなど人道支援団体は活動の一時停止を余儀なくされた。今後州内では、05年の和平合意の内容が妥当だったかを評価する「ポピュラー・コンサルテーション」（公聴会）が予定されており、その後7月には6年半の移行期間の終了とともに国連の平和維持部隊が撤退する予定。（今井）



■村の技術、ベッド作り。材料はすべて森で手に入れる。

## 南アフリカ

### ■HIV/エイズ(リンボポ州)

05年8月より農村でのHIV/エイズの治療に関する研修、栄養改善のための菜園づくり研修、患者や孤児へのケアを行ってきた。

昨年11月以降は、5年間の活動終了とそれに伴う事業評価の結果を受けて、今年度以降の活動の可能性を検討するためカプリコーン郡・ベンベ郡の両活動地を訪問、情報収集を実施中。合わせて9月までに実施できなかった家庭菜園用の水タンク設置に向けた話し合いを実施、ベンベ郡においては対象世帯を選定し終え、今後設置予定。カプリコーン郡では設置し終えている。

### ■地域住民を対象とした菜園研修(ハウテン州ソウェト地区)

ジョハネスバーグ市の南西にある旧黒人居住地区・ソウェトにて中学校の敷地を利用して地域住民（約10名）対象の菜園研修を実施している。3月21～25日、JVCのかつての活動地である東ケープ州カラ地区の篤農家に学ぶための経験交流を実施した。30～70代の10名が参加。参加者からは「有機農業で生きていけるとわかったことが大きい」という声が聞かれ、技術を学ぶと同時に自らの実践に自信を得た様子も観察された。直後に行なった3月30、31日の研修時にはすでに学んだ技術が使われておりインパクトの大きさがうかがえた。4月11～13日の研修では、牛糞が入手しにくい都市部における対策として、鶏糞を使った液肥づくりと使い方を学んだほか、植えたいものについて検討、計画した。（渡辺）



■篤農家（左）の畑で話を聞く参加者たち。

## イラク

### ■地域社会支援

前年度に引き続き、キルクークで多民族の背景を持つ子どもたちに芸術作品の共同製作を通して相互理解を深めてもらい、保護者を含む地域の関係者の交流を通して地域の平和づくりに役立てて貰おうという狙いを持つ「子どもたちとつくる地域の平和」ワークショップを実施すべく、現地パートナーであるイラクのNGOのINSANと調整中。5月末に2010年の学年度が終わり6月より夏休みに入るので、この夏休み期間中に実施を予定。

3月11日の東日本大震災の報に接したイラクの関係者が、日本の被災者、特に子どもたちに向けてイラクの子どもたちからの応援のメッセージを伝えたいとして、自主企画として特別ワークショップを実施してくれた。（原）



■日本の震災被災者に向けて絵を描く子どもたち。

## タイ

### ■農村派遣研修

「タイの農村で学ぶインターンシッププログラム」の募集を締め切り、応募者の面接選考を開始。今年9月の派遣に向け、現地受け入れ側との調整も始めている。

### ■日タイ若手農民交流

4月中旬、これまで交流を行ってきた島根県浜田市弥栄町を訪問し、これまでの交流活動の振り返りを行なった。

「この交流から何を生み出すのか」「ただの交流では続けていく意味があるのか」など活発な議論が交わされた。その他、7月にタイの農民が来日するにあたっての調整を行なった。（宮田）

### ■南タイ洪水支援

2011年3月に発生した南タイの豪雨による大洪水が発生し、60名ほどの死者を出した。FEDは特に被害が深刻であったスラタニー県ブンビン郡でビルマ人労働者の住居と当面の生活への支援を行ない、JVCは1万ドルの支援を行なった。（下田）



## パレスチナ

### ■ガザ栄養改善支援

幼稚園児約 360 名を対象に貧血予防のために、西岸産の牛乳とガザ産のビスケットを配布中。いずれも鉄分などが強化されている。幼稚園教師に対する衛生・栄養教育は終了、現在子どもたちの母親に対する教育を実施している。

封鎖による失業、貧困の厳しい村で 10 家族を対象に実施している養鶏事業は、5 月でいったん昨年夏からの事業のまとめを行ない、その参加家族の知人、親戚などに拡大する準備を行なっている。春先にはヒヨコが多く生まれており、毎日採れる卵は子どもたちの貴重な栄養源となっている。

ガザ市内で子どもの栄養失調予防を目的とした活動を実施中。50 名以上の母親リーダーが、子どもの貧血、栄養失調の検査や母親たちに対する栄養・健康教育を行なっている。栄養価の高い食材を使った調理実習も組み合わせて行なっている。

### ■健康教育・巡回診療支援

現地の医療 NGO と協力し、エルサレムの壁の両側の学校や幼稚園などで健康診断、保健教育などの活動を実施。また、健康教育や救急法について、学んだ生徒たちが他の生徒たちに教えていけることを目的とした「トレーナーのためのトレーニング」も最終段階に入り、それぞれの学校ではトレーナーとなった生徒が、救急法や喫煙の害などについて他の生徒たちに対して講習などを開始した。

### ■平和創造・平和構築

2 年間実施した、東エルサレムで女性たちのエンパワーメントを目指したプロジェクトについて総括を実施、今後の関わり方について検討中。(福田・津高)



■この日は卒園式。最後の鉄分強化牛乳を飲むガザの子どもたち。



■ MRS の医師の監督のもと、応急処置の発表を行なっている生徒(中央)。

## アフガニスタン

### ■女性と子供の健康改善のための地域保健医療事業

4 月の会議で、昨年導入したファミリー・ヘルスブック(カルテ)の継続やヘルスコミティ(村の保健委員会)のフォローアップ、診療所のあるゴレーク村での母親教室の実施について話し合った。会議後、さっそくヘルスブックの運用の手順をこれまでより簡略化したり、これまで母親教室が開かれていなかったゴレーク村で伝統産婆と協力して女性への健康教育を広める準備にとりかかった。

### ■教育支援活動

診療所の対象地域(8 カ村人口約 21,000 人)にある学校 14 校(内 7 校が女子校)の保健担当教員 23 名を対象に、健康教育ワークショップを 3 月 22 ～ 28 日の 7 日間実施した。取り上げた内容は、「結核」「マラリア」「薬の副作用」などで予防や応急処置につながる基礎知識を学んでもらった。

### ■政策提言

アフガニスタン事務所の治安担当スタッフが 3 月 22 日、紛争地域においてどれだけの人が人道支援を受けられているか、実施側の困難は何か等を話し合う会議に参加し、軍隊が人道支援をやりにくくしている実状を報告した。スイス政府のミッションが主催したこの会議は、後日ハンドブックとして出版される予定。(谷山由)



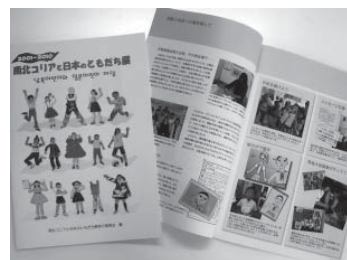
■約 6 カ月ぶりに顔を合わせ話し合う双方のスタッフ。

## コリア

### ■絵画交流『南北コリアと日本のともだち展』

◎十年記念冊子刊行：『ともだち展』の 10 年をまとめた記念冊子(カラー 36p)を編集、発行した。協力者であるソウルやピョンヤンからのメッセージ、これまでの展示作品紹介のほか、子どもたちの感想も掲載。関係者やこれまで参加した子どもたちに配布するほか、希望者には頒布の予定。

◎国内巡回展：当初 3 月末に予定されていた神奈川での展示会が、5 月上旬にかながわ県民センターにて行われた。神奈川県内の子どもたちの絵とともに、昨年の共同制作や参加作品を展示。会期中にはギャラリートークも行ない、3 日間で約 250 名の来場があった。今年の共同制作となる「つなぐ＊つながる＊ともだち列車」のコーナーでは、長時間にわたって熱心に工作に取り組む子どもたちの姿も見られた。(寺西)



■十年記念冊子。ご希望の方は事務局までご連絡ください。

## 調査研究・政策提言

(この期間に主な活動はありませんでした。5 月下旬に行なわれました ODA 政策協議会に関する活動につきましては、次号でお知らせいたします。：編集部)

## 三春町の農家とともに 「滝桜花見まつり」

調査研究担当 高橋 清貴

四月二十三日、「滝桜」を擁する福島県田村郡三春町で農業を営む会沢さん、松本さんという二人の女性を中心に花見まつりを開催しました。「滝桜」は樹齢約千年。あいにくの雨でしたが、日本三大桜の名に恥じない妖艶な美しさを見せており、満開の「滝桜」を堪能することができました。

その後、一行は三春町が提供してくれた交流会会場（自然観察センター）にバスで移動。そこでは、地元の農家の女性たちが「幸せむすび」と名付けられたおにぎりや豚汁を用意して歓迎してくれました。総勢約百五十名が、地酒「三春駒」の置かれた机を囲んで、交流会は始まりました。

◎ 今、福島の農民は、震災と津波被害に加え、放射能汚染にも苦しめられています。三

## 国内ひろば

JVC network

三春町は阿武隈山系にあって地震の被害は小さかったのですが、原発はそうはいきません。屋内待避に加えて、農作物の出荷停止命令と放射能汚染の「風評被害」が農民から行動の自由を奪い、ストレスを与え続けています。今回の桜まつりは、こうしたことに少しでも風穴を開け、元気づけることがねらいです。

今回のまつりを地元でつくってくれた農協婦人部の会沢さんたちに出会ったのは、まつりのわずか三週間前でした。ちょうど放射能汚染の土壌調査の結果待ちで、農家の人々はみな心安らかでなかった時でしたが、手作りの地元料理で私たちを歓待してくれ、話が弾みました。そんな中、「どんな町の元気が奪われている。皆が集まって、笑って語り合う場をつくりたい」と言う会沢さんの言葉が私たちの胸に突き刺さりました。この女性たちが元気にならないで「復興」はあり得ない。「復興」という言葉で政府は色々な政策を打ち出すだろうが、それがこの土地とコミュニティを壊さないとも限らない。農家の女性たちが主役にならなければ、真の「復興」はあり得ないと思ったのです。

東京に戻り、早速PARCやAPLAなど農業に関心を持つNGOに声をかけ、実行委員会を立ち上げました。しかし、そこで議論になったのが「まつり」という言葉でした。震災と津波で苦しんでいる人たちがまだ大勢いるなかで、「まつり」なんて不謹慎と言われるのではないかと。侃々諤々（けんけん）の議論の末、「まつり」が元々は自然と交感力を得る場であることに意義を見出すことにしました。

◎

2010年冬募金にご協力いただきまして  
ありがとうございました。

2010年度冬募金（無指定のみ、2010/12～2011/3）

1,234件 9,060,713円

[募金額の20%は管理費とさせていただきます。また、上記冬募金の金額は、次ページ左上のJVC募金の欄には含まれません]



■三春の「滝桜」。写真左下の人たちと比べるとその大きさがわかる。

音を語り合う集まりがしたかった」という言葉に集約されています。

最後にみなで歌った『ふるさと』の三番の歌詞は次のようにものでした。「志を果たして、いつの日にか帰らん。山はあおきふるさと。水は清きふるさと」。この「懐かしき未来」を、原発事故が進行中の福島でどうやっていくか。これまで国内であまり活動をしてこなかったJVCですが、三春の、福島、そして日本の「未曾有」の挑戦に向けて新たな一歩を踏み出しました。



## 募金にご協力ありがとうございます

JVC の活動は、皆さまの募金に支えられています。  
JVC への募金は税制優遇措置を受けることができます。

### ① JVC 募金 (郵便振替)

JVC の各国での活動に役立てられます。募金先をご指定いただくこともできます。

口座番号：00190-9-27495  
加入者名：JVC 東京事務所

3 月計 1,797,422 円  
4 月計 2,766,298 円

|         | 3 月         | 4 月         |
|---------|-------------|-------------|
| 無指定     | 182,584 円   | 108,603 円   |
| タイ      | 0 円         | 65,000 円    |
| カンボジア   | 275,215 円   | 15,500 円    |
| ラオス     | 15,550 円    | 562,880 円   |
| 南アフリカ   | 0 円         | 3,000 円     |
| パレスチナ   | 119,873 円   | 55,480 円    |
| アフガニスタン | 85,200 円    | 5,000 円     |
| コリア     | 0 円         | 0 円         |
| イラク     | 1,000 円     | 5,000 円     |
| スーダン    | 10,000 円    | 0 円         |
| 東日本大震災  | 1,108,000 円 | 1,945,835 円 |

※上表には「夏/冬の募金」は算入していません。

### ② 犬養道子「みどり一本」募金

JVC 活動地での環境保全活動に使われます。

口座番号：00100-8-212497  
加入者名：犬養道子「みどり一本」

3 月計 50,500 円 /13 件  
4 月計 100,500 円 /13 件

### ③ JVC マンスリー募金

銀行や郵便局の口座、クレジットカードから自動引き落としできる手軽な募金方法です。

3 月計 2,084,450 円 /1,811 件  
4 月計 2,022,450 円 /1,744 件

## 編集後記

6 月上旬、長年の懸案事項であったウェブサイトのリニューアルを敢行、それと同時に携帯サイトもオープン。まだまだ改善すべき点は多いですが、とりあえず気が楽になりました。Movable Type と Google 周辺に本腰を入れてからはや 3 年…、身辺整理して、もうちょいフットワークを軽くしたいです。しばらくは携帯サイトの改善に取り組んで、次はスマホ対応かな？ (H)

## 2011 年度東京事務所インターン紹介

今年の東京事務所インターンは 6 名。好奇心旺盛な人が多い印象です。JVC での活動を通してその好奇心を満たせるとともに、その先に新しいものがみえてくることを期待しています。



■ 左から、安藤、角南、高橋、成田、白川、野口。

安藤 朋子 (会員担当)

「今は日本の方が大変でしょ？」中二の娘の言葉です。こんな時に国際協力？ そんな疑問も、地域の人と共に考える、という理念を国内外問わず誠実に実行しようとしている JVC のスタッフに接することで解けてきました。あき

らめずに考え続ける姿勢を学び、娘たちにも伝えることができ、と思います。

白川 徹 (アフガニスタン事業)

本職はジャーナリストで、〇六年からアフガン取材しており、JVC には取材でも度々お世話になっていました。将来的には支援関係に進む道も考えつつ、学ばせていただきます。

角南 美帆 (アフリカ事業)

ケニアでの三回のボランティア経験を通して、短期的な支援や個人的な金銭による支援の弊害を目の当たりにし、教育や技術支援など「一次につなげていけるもの」を支援することが重要だと思うようになりました。JVC の理念に強

い共感を覚えてインターンに NGO として活動することの意義や課題、さらにはスタッフの思いなどをこの一年で学びたいと思います。

高橋 舞里菜 (ホームページ)

大学で国際政治学を学びながら、学内でカンボジアへのボランティア企画を立ち上げたりしていました。ホームページを通して多くの人に JVC を知ってもらうと同時に、自分も国際協力のリアル、葛藤を知りたいです。

成田 矩子 (広報)

「パレスチナのことが知りたい!!」と、三年前からパレスチナボランティアチームに参加。アラブ漬けの楽しい大学生活でしたが、さて卒業した

らどうしよう、と迷っているところでインターンを始めました。JVC を通じて出会うみなさんからヒントをいただきつつ、血の通った、思いのこもった仕事がしたいです。

野口 和宏 (パレスチナ事業)

人生の回り道をして JVC に来たのは人の縁、偶然に負うところが大きいです。今まで国際貢献とはまったく縁の無い世界で生きてきましたが、回り道の中で人と出会い、感じた事・考えた事・経験した事を生かして、JVC やパレスチナに関わる中で、様々な価値観の人とつながって生きていく事を学んでいきたいと思えます。

JVC ウェブサイト 会員専用パスワード (2011 年 7 月～ 8 月) :

U8hgB4vxi9

JVC ウェブサイトから T&E のバックナンバーをダウンロードするときには必要です。

# 暮らしを彩る道具

LIFEWORk ITEMS

92

Cambodia



## 伝統楽器を奏でる

冠婚葬祭や伝統舞踊などに欠かすことのできない音。現地で「コーン」と呼ばれるこの打楽器は、人びとの喜びや悲しみを奏でてきた。紀元前4世紀から紀元1世紀ごろ成立したドンソン文化を象徴する「銅鼓」がその起源と言われる。

(カンボジア スパイリエン州にて撮影)



日本国際ボランティアセンター (Japan International Volunteer Center) は、1980年2月、タイのバンコクで誕生した市民による国際協力団体です。JVCの活動目的は、国際社会のなかで、社会的、精神的、物理的に困難な立場を強いられているアジアやアフリカ・中東の人びとに協力すると同時に、地球環境を守る新しい生き方と人間関係をつくり出そうということにあります。そのため私たちは、自らの意志でJVCに参加し、活動を継続してきました。JVCはボランティアという言葉を、「自発的意志をもって、責任ある行動をとる」という意味で団体名として使っています。

### ■ JVC では会員を募集しています。

会員は総会に出席し、JVCの方針などを決定するほか、情報・資料の入手、各種の活動・報告会・学習会等へ参加することができます。会員の方には年6回この会報誌と年次報告書をお届けします。

- ◎一般会員 10,000 円
- ◎学生会員 5,000 円
- ◎団体会員 30,000 円

※それぞれに正会員と賛助会員があります。入会のお申し込み、会員の方のメールマガジンのお申し込み、住所変更などは会員担当の寺西へ。

→ s-tera@ngo-jvc.net

### ■オリエンテーション (説明会) にお越しください。

JVCの活動内容をご紹介します。お気軽にご参加ください。会場はJVC東京事務所、参加費は無料、予約不要です。

- ◎第1月曜日午後7:00 - 8:30
- ◎第2・第4土曜日午後2:00 - 3:30

### ■ E-mail

info@ngo-jvc.net

### ■ ウェブサイト

<http://www.ngo-jvc.net/>

※本誌の記事・写真等の無断転載・複写を禁じます。

※本誌は、日本の森の間伐材を有効利用して作られた用紙「間伐材印刷用紙」(古紙90%、間伐材パルプ10%)で作成しました。



会員数 (6月9日現在) 合計 1,211 名  
(正会員 591 名、賛助会員 620 名)